

50年の取り組みの軌跡を次の世代へつなげていく



全トヨタ労働組合連合会
会長

鶴岡光行

2022年9月、全トヨタ労働組合連合会は50周年を迎えました。

50年前先人たちは、自動車産業が日本の基幹産業となりつつある時代の中で新しい労働組合のあり方が求められていると考え、それまで主流であった産業別組織に加えグループ労連の結成を決意し、1972年に74組合、10万人でその第一歩を踏み出しました。

結成に至る中で生まれた全トヨタ労連の基本理念に「トヨタはひとつ」という言葉があります。この言葉は「1台の車を作るためにはボルト1本が欠けても成り立たず、また完成した車が運ばれ、販売されることによってはじめて、お客様の手に渡る。従ってグループ内には、企業の間にも働く人々の間にも優劣はない」という前提に基づき、お互いの立場を尊重しながら、グループ全体の活力向上を目指すという考え方です。

また、先人たちから引き継がれた「労使相互信頼」という言葉は、今では私たちの労使関係を語る時に当たり前に使われる言葉ですが、この言葉が根付くまでには幾多の試練、労使双方の努力、長い交渉の歴史がありました。しかしこの「労使相互信頼」の労使関係こそが職場と会社を強くしていくあるべき姿であり、会社、トヨタグループ、ひいては自動車産業の発展に寄与するという考えのもと、先人たちの熱い情熱と努力によってグ

ループ労使に根付き、活動も含め浸透していきま

した。
個々の組合では、労使関係や抱える職場の課題が異なる中でも、なすべき取り組みを自分たちで考え、徹底的に話し合い、お互いを理解することで信頼を深め、より強い職場を作り上げていく。「トヨタはひとつ」という旗頭のもと、一つひとつの活動を丁寧^{はたがら}に積み重ねてきたのが、全トヨタ労働組合連合会結成からの50年でありました。今、あらためて「労使相互信頼」という言葉を私たち労働組合は肝に銘じ、活動に取り組まなければならないと思います。

現在、私たちは、結成当時と同じ、またはそれ以上の時代の転換期の中を生きています。この10年を振り返っても想像を超える天災や自然災害に加え、半導体不足、そして新型コロナウイルスと、これほどの規模と長い期間私たちの仕事と生活が変化にさらされたことはないと思います。働き方という点でも、デジタル化、リモートワークといった、本来10年かけて起こるような変化がわずか1～2年のうちに急速に進展、定着しました。

働く人の意識が変わる中で、いかに多くの人に「自動車業界で働きたい」と思ってもらえる職場・働き方を実現していけるか。労働条件の維持・向上はもちろん、生きがい・働きがいの醸成や、子育て・介護といったダイバーシティの観点でも、誰も

が働きやすい職場を作り上げていくことは、今後さらに労働組合がこだわっていかなければいけないテーマであります。また、我々が今直面しているカーボンニュートラル社会への変革は、日本のものづくりと雇用を守るための戦いではありますが、一方で、日本の自動車産業とそこで働く仲間は、自ら変化し、こうありたいという未来を自ら創り出すことができる、活気と魅力があることを社会に示していく好機^{あいたずさ}でもあり、労使、相携えまさに「車の両輪」となり取り組んでいかなければならないと思います。

全トヨタ労連には50年の歳月をかけて築き上げてきた強い結束力があります。300組合、35万7千人の力が結集すればどんな変化も乗り越えていけるはず。そしてその先には組合員の笑顔が10年後、20年後も続くよう、私たち労働組合はこれからも努力を積み重ねていかなければならないと考えております。

今回、これまで多くの困難を乗り越えてきた諸先輩から「引き継ぎ、積み上げたもの」を振り返り、50年の取り組みの軌跡をしっかりと次の世代につなげるため、「全トヨタ労働組合連合会結成50周年記念誌」を発刊しました。ぜひとも関係各位の皆様にご高覧いただき、より一層のご指導、ご鞭撻をよろしく願います。